


『図書館員おすすめの一冊』 

『渚のリーチ!』 黒沢咲/著 河出書房新社

2022年 9分類(日本文学) 913.6

麻雀は実力だけでなく運で勝敗が左右されるからこそ、時には理不尽なこともあり悔しい思いをすることがあります。しかし反対に、運によって大逆転勝利を収め、大きな感動が生まれることもあります。

様々なドラマが生まれ、老若男女、プロアマチュア問わず楽しめる麻雀の魅力が詰まった小説です。

『ぼくたちのスープ運動—小さな思いやりが世界を変える!—』 ベン・デイヴィス/作

渋谷弘子/訳 評論社

2022年 9分類(児童外国文学) 93テ

ジョーダン、大切な友だち・リオとの約束を守るために「ミツヴァー」(だれかに何かいいことをすること)を続けています。ある日、ホームレスの人にスープをあげたことから始まった「スープ運動」は、思いがけず周囲を巻き込んで広がっていきます。実話をもとにした、あたたかい気持ちになるお話。

『京大おどろきのウイルス学講義』

宮沢孝幸/著 PHP 研究所

2021年 4分類(自然科学) 465.8

COVID-19の大流行によって怖い面ばかりが強調されるウイルスですが、実は病気をおこすものは全体のごく一部のようです。

生物のDNAを書き換え、その進化に貢献する「レトロウイルス」や、がん細胞をやっつける「腫瘍溶解性ウイルス」など、有用なウイルスについても知ることができる、ウイルスのイメージが変わる一冊です。



『空腹』こそ最強のクスリ』 青木厚/著 アスコム

2019年 4分類(自然科学) 498.5

自分は、子どものころから食が細く、現在も朝食は食べる習慣が無く、昼食も軽く済ませ、夕食を適量に摂っていました。世間と比べ、何となく後ろめたいものを自分の食習慣に持っていましたが、この本を読んで、現在の食習慣も悪くないと感じるようになりました。

断食など、過度に負担がかかることなく、何となく自分の体質に合ったことを気軽にやってみることが、大切だと思えるようになりました。生活習慣病の予防や、「オートファジー」(何か難しい単語)も出てきますが、この本を参考にして、自分のできる範囲内で取り組んで戴けたら、と思います。

約2年半ぶりに
わん! だふる読書体験開催しました! 9月24日
(土曜日)

読書サポート犬とふれ合いながら本を読むというユニークな事業が再開しました。参加した小学生は、犬に読むための本を準備して集まりました。読んであげる前に、犬とのあいさつの仕方や犬の嫌いなことなど仲良くなる方法を教えてもらってから、読書サポート犬が待つ読み聞かせ会場へ。

さっそく、教えてもらった「やさしいグー」でそれぞれの読書サポート犬とあいさつしてから読み始めました。犬の様子を見ながら読み進める子、背中をなでながら読んでいる子と読むスタイルは様々。始める前は少し緊張した表情の子もいましたが、終わった後はみな満足げな笑顔をみせていました。その後、読み聞かせした犬以外の犬ともふれあって過ごしました。

この事業は、**来年1月にも実施予定**です。

